

第3回 まっさきふれあい映画館

夢は牛のお医者さん

子どもの頃に抱いた“夢”について 家族や親子、仲間同士で会話すること、ありますか？ とくにお父さんと小中学生の息子や娘さんには、目に見えない壁がありませんか。この映画はそんな方々にお勧めの映画です。映画と一緒に観て気持ちをシェアしましょう。

2015年

3月7日(土)

■主催：大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会（末崎地区公民館・大船渡市教育委員会・霞が関ナレッジスクエア・末崎町内地域団体有志などで構成）

■会場：大船渡市末崎地区公民館（ふるさとセンター）2階会議室

■受付・開場： 13:30～

■上映：14:00～15:30（上映時間86分）

■トークイベント：15:45～16:15

■定員：50名(先着順)

■参加費：無料

参加対象者：末崎町内並びに近隣にお住まいの保育園児・小学生・中学生・高校生と父母・祖父母など。一般住民もOK。

■「霞が関シアター+トークイベント」同時開催

霞が関ナレッジスクエア会場⇔末崎地区公民館会場
トークゲスト：田村 学氏（文部科学省初等中等教育局教科調査官） 神代 浩氏（文化庁文化財部伝統文化課長）



●高橋知美さんプロフィール 昭和53年 新潟県松代町筋平地区生まれ 三姉妹の長女。小学校に入学した3頭の牛の中で、強子(つよし)を担当。知美さんいわく3頭の中では「足が長くて色男(ハンサム)。牛のシッポをつかむと蹴られる危険があるが、知美さんはよくシッポをつかんで散歩。牛との信頼感も人一倍強かった。小学校は、違う学年の子と一緒に授業を受ける「複式学級」。獣医学部を目指すため、親元を離れての下宿生活で、遠い高校へ通った。高校入学直後の成績順位が最下位近かったことにショックを受け、「3年間テレビを見ない」と誓って勉強。高校卒業間際には学年トップ15に入るほど成績を上げた。大学卒業後は新潟県上越市にある家畜診療所に勤務。平成20年に結婚して丸山姓になる。2人の男の子を子育てしながらも獣医を続けている。



■監督 時田 美昭 ■製作著作 TeNYテレビ新潟/協力 日本テレビNNNドキュメント/配給・宣伝協力 ウッキープロダクション ■2014年 文部科学省選定/2014年キネマ旬報文化映画ベスト・テン 第3位/2014年度 日本映画ペンクラブ賞 文化映画部門 第1位 ■プロデューサー 坂上 明和 ■監督 時田 美昭 ■ナレーション 横山由依(AKB48)

昭和62年(1987年)4月、新潟県の山あいにある全校児童9名の小さな小学校には、この年新入生が一人もいなかった。そこで校長先生は「子どもたちにお友達を」と、3頭の子牛を入学させた。当時3年生だった高橋知美さん(現・丸山姓)が牛の世話をするなかで抱いた夢・・・それは「牛のお医者さん」。牛が経済動物であるゆえの宿命、辛い別れの体験、両親やおばあちゃんに支えられて真っ直ぐに挑んだ獣医への道。そして難関を乗り越え資格を取得。故郷に戻り地域に信頼される獣医さんとなる。かつての少女はやがて2児の母となり、育児と仕事を両立させながら夢の続きを走り続けている。夢を追った少女の26年間のドキュメンタリー

[参加申込・問合せ先] 大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター) 電話/FAX 0192-29-2955
[内容問合せ先] 霞が関ナレッジスクエア 電話03-3288-1921 kk2toiawase@avcc.or.jp